

# 調査結果のまとめ

## 1. 一般町民向けアンケート調査結果

### (1) 地域での住みやすさについて

住みやすさについては、約7割が住みやすいと回答しており、特に年齢が上がるほど「住みやすい」と回答した人の割合が高くなっている一方で、若い世代では住みやすいと回答している人の割合が低く、若年世代の定住に向けた大きな課題となっています。

生活環境の満足度をみると、子育てに関する環境の満足度が高くなっています。一方、公共交通や通勤・通学、日常の買い物の利便性については満足度が低くなっています。また、公園などの憩いの場についても満足度が低くなっており、安全に子どもが遊ぶ場が少ないことがうかがわれます。

近所との付き合いについてみると、あいさつ程度の付き合いをしている人は9割を超えており、日頃から助け合っている人が約3割となっています。地区別に見ると、特に春日地区、坂内地区で日頃から助け合っている人の割合が高くなっています。

今後の近所付き合いについてみると、「今のままでよい」が約8割と回答しており、より地域の助け合いを広げていく上では課題となっています。

### (2) 地域での日常生活について

近所の子どもや高齢者への接し方についてみると、「あいさつや声かけをする」が約8割となっており、特に40歳代や親と同居している世帯で「見守りをする」の割合が高くなっています。子どもや高齢者の見守りについては、当事者は意識が高いものの、当事者でない人の意識が低く、地域の見守り活動に限られた人の中での活動となっていることが懸念されます。

毎日の暮らしの中での困っていることや不安については、将来の老後に関することに不安を感じている人が多い一方で、70歳以上では「自分の健康に関すること」の割合が高くなっており、介護予防に向けた健康づくりの充実が求められています。

こうした困っていることや不安の相談相手を見ると、「親族」が8割以上となっている一方、「相談できる人がいない」、「相談したくない」という回答がわずかながらあります。こうした人が安心して相談できる環境づくりが必要です。

日常生活が不自由になったときに地域でもらいたいことをみると、「安否確認の声かけ」を求める人が多くなっており、地域の見守りが重要となっています。

地域生活で重要なことについては、「地域住民の協力により地域を住みやすくすること」と回答した人が多く、地域の助け合いの重要性を認識している人が多いことがうかがえます。

### (3) 災害時における助け合いについて

災害時における助け合いを行う上で必要なことをみると、日ごろからの付き合いが大切と思う人が多く、日ごろからの近所付き合いが大切なことが認識されています。年齢別でみると、50歳未満では地域における援助体制の構築が大切と思う人が多く、地域の防災組織について、若年世代において重要と認識しています。

自然災害が間近で起こることが予想されたときの優先することについては「家族で話し合いをし、自力による対策を練る」と回答した人が多い一方で、年齢が高い人では、「家族で話し合いをし、自力による対策を練る」の割合が低く、この要因として、高齢者のみ世帯が多いことなどが推測されます。

被災後の生活で頼りにする人をみると、「家族」が8割以上であり、家族のいない人への対応が課題となっています。その中で、春日地区、坂内地区では、「近所の人」が高く、地域での助け合いの関係がうまくできていることがうかがえます。

### (4) 地域活動について

地域活動への参加状況をみると、約5割は参加していますが、20歳代では参加状況が低くなっており、若者の地域活動への参加促進が必要です。

地域活動に参加している人のうち、約7割は、区の活動となっており、区の活動が地域活動のベースとなっていることがうかがわれます。地域活動に参加していない理由は、勤務などの都合から参加していない人が約3割となっています。

一方、ボランティア・NPO活動をしている人は、約1割であり、活動の内容は「高齢者に関わる活動」、「スポーツ・文化・レクリエーション活動」が多くなっています。また、行ってみたいボランティア（助け合い）は「安否確認の声かけ」が多くなっています。ボランティア活動を進めていく上で必要な条件は、健康であることを挙げる人が約8割となっており、健康づくりが前提、という意識が強くなっています。

## ( 5 ) 揖斐川町の福祉について

福祉についての関心度をみると、子育てや児童の健全育成、高齢者の健康や福祉、障がいのある人の健康や福祉、健康づくりの各々について7割以上の関心度となっています。その中で、20歳代の関心度が低く、学校での福祉教育や若者への福祉教育の充実が求められます。

福祉サービスに関する情報の入手手段については、町の広報紙から情報を入手している人が多くなっています。一方、20歳代ではインターネットによる入手が比較的多く、今後、紙媒体のみでなく、ITを活用した情報提供の充実も求められます。

福祉に関する考え方をみると、公助と共助の協働の考え方の人が多くなっている中で、年齢が上がるほど自助的な考え方の人が多くなる傾向がみられます。自分のことは自分で、という考え方が強い傾向がみられる高齢者に対して、支援を求めることの情報発信をしやすいするための啓発が必要と言えます。

また、福祉サービスの充実のために財源の負担を重くすることに対して、反対の人が約7割となっており、前述のように共助の重要性に対する意識が強い中で、金銭的な負担を上げずに、公助と共助の協働により福祉サービスを充実していくことが重要です。

地域での相談支援の中核となっている民生委員・児童委員制度の周知度をみると、約3割の周知状況であり、助けてくれる人、相談に乗ってくれる人が身近にいることを一層周知していくことが必要です。

住みよい地域づくりのために取り組んでいきたいことをみると、「高齢者や障がいのある人への支援」、「健康づくりや生きがい活動」などに取り組んでいきたい人が多くなっています。

## ( 6 ) 社会福祉協議会について

揖斐川町社会福祉協議会の周知度をみると、約4割の周知状況となっており、このうち、知っている内容は、「地域福祉を推進する団体であること」の周知が7割を超えています。また、社会福祉協議会が行っている事業については、広報紙の発行、共同募金や介護保険事業などの周知度が高く、地域福祉の推進に直接的に関係する事業の周知は低くなっています。

社会福祉協議会に望む事業については、介護予防事業に対する要望が高くなっており、加齢による身体機能の低下に対する支援などを強く望まれています。

社会福祉協議会で行っている福祉委員制度については、約4分の1の周知状況であり、一層の周知が必要です。

小地域活動の代表的なものとして、ふれあい・いきいきサロンの周知状況をみると、約4割の周知状況で、対象となる60歳以上においても約5割の周知状況であり、今後より一層の周知を図り、引きこもりの防止や介護予防などにつなげていくことが必要です。

## (7) IT情報について

インターネットの利用状況は、全体では4割に満たない状況ですが、20歳代、30歳代では7割以上の利用状況となっています。インターネットを利用している人のうち、町の情報源としてインターネットを利用している人は約15%に留まっています。また、メールでの情報提供を希望する人は約2割となっています。

インターネット自体の普及率は高まっている中で、インターネットを活用した情報提供のPRを図りながら、インターネットを活用していくことが必要です。

## (8) これからの揖斐川町について

これからの揖斐川町で必要なことをみると、「住民がお互いに助け合えるまちづくり」が大切だと思う人が多くなっています。その中で、高齢者が社会参加しやすくするために必要なことについてみると、地域の見守りや助け合いが大切だと思う人が多く、地域での助け合いが重要となっています。

障がい者が社会参加しやすくするために必要なことについてみると、「障がいに対する理解」が大切だと思う人が多く、互いの理解が重要となっています。

子育てについて地域で取り組んでほしいことをみると、「子ども同士が遊べる機会の充実」、「地域の子どもへの見守りと声かけ」が大切だと思う人が多く、地域での見守りが重要となっている一方で、前述での「公園などの憩いの場」に対する満足度が低い状況を考慮すると、子ども同士が安心して遊べる場の整備が求められています。

## 2 中学2年生向けアンケート調査結果

### (1) 定住意向について

揖斐川町に住み続けたい人は約3割であり、特に男性は定住意向が低くなっています。定住意向が低い理由は、「田舎」というイメージや生活利便性が悪い、という理由が多くあります。一方、揖斐川町以外のところで暮らして、また戻ってくるという意見もみられました。

### (2) 日常生活について

うれしかったり楽しかったりしたことは、友達や休日のことが多く、それを話す相手は、友達が約7割となっています。一方、男性は誰にも話さない人が2割を超えています。

悩みや嫌なことは、「勉強のこと」が5割を超えている一方、特に男性は「悩みや嫌なことがない」と回答している人が約3分の1となっています。また、悩みや嫌なことの相談相手は友達が多くなっている一方で、男性は悩みや嫌なことを相談したくない人が約3割となっています。

### (3) 自由時間について

休日の過ごし方をみると、部活動が約6割である一方、パソコンやメール、ゲームをしている人が4割を超えています。

今後やってみたいことをみると、「動物とのふれあい」に次いで「赤ちゃんや小さい子どもとのふれあい」が約3割となっています。

### (4) 地域での生活について

近所付き合いについてみると、あいさつ程度以上の付き合いをしている人は、約9割となっている中で、「顔が合えば、あいさつをする程度」が約3分の2となっています。

困っている人を見かけたときの手助けを実行している人は約15%となっています。また、「何もしない」と回答した人の理由をみると、「めんどうだから」が約3分の1となっています。

地域の助け合いや福祉などに関心のある人は約4割であり、地域の助け合いや福祉などに関心がある人の理由をみると、ボランティアの経験をし、やりがいを感じた人が約4割となっており、ボランティア活動の体験が重要となっています。また、地域の助け合いや福祉などに関心がない理由をみると、「めんどうだから」が約5割となっています。

地域の助け合いや福祉などに関心がない人が、興味を持つためには、仲間づくりやイベントなど楽しいと感じられることが大切です。

地域活動や福祉の情報源は、学校などからの情報入手が約7割となっています。

## (5) 地域活動、ボランティア活動について

揖斐川町社会福祉協議会の周知度をみると、1割未満の周知状況となっています。また、地域の行事や活動に半数以上がほとんど参加しています。参加している内容は、「資源回収」、「お祭り」、「地区運動会」が参加経験のある人のうち各々7割を超えています。

ボランティア活動については、約3分の1が参加しています。活動の内容は、「まつりやイベントの手伝い」、「清掃・美化、ごみリサイクル」が4割以上となっています。

## (6) 今後の地域福祉のあり方について

福祉を充実させるために重要なことについては、住民がお互いに助け合えるまちづくりが大切だと思う人が約8割となっています。